

令和3年12月22日

【驚掴みされてます】

前日も登場した A 君です。

A 君はよく校長室や職員室に寄ってくれて、とても素敵な会話をしてくれます。前日も思わず微笑むようなお話でしたが、今回はこんな会話でありました。

A 君：「先生、ほくね。お兄さん、お姉さんのようなぞうきんがけ、できるようになったよ」

私：「うん？ お兄さん、お姉さんのようなぞうきんがけ？ どんな感じなの。やってみせてくれますか」

A 君：「うん」

と、おもむろにポケットからハンカチを取り出してぞうきんがけをしようとしたので

私：「こ・こ・これでやってみせてくれますか」

と、厚めのティッシュを渡しました。



すると、この写真のように、膝立ちをして、片手に雑巾に見立てたティッシュをワイパーのように動かしてのぞうきんがけを披露してくれました。

「お兄さん、お姉さんのようなぞうきんがけ」という表現にも、そして、このようなぞうきんがけができるようになったことへの喜びを素直に表現できる健気さ。今までできなかったことが、できるようになった喜びとともに、お兄さん・お姉さんみたいになりたい、という憧れさえも感じさせてくれる言動。いやあ、思わず会話に引き込まれてしまいます。

この学期末に来て、「つぶやき」常連組を狙っているのかと思うほどのスマッシュヒットを連発する A 君に、私の心は驚掴みされているのであります。

いよいよ、あと数日で2 学期が終わります。まだまだ、今まで通りというわけにはいきませんが、ふりかえてみたら、それでも昨年度に比べたらかなり多くのことができるようになりました。

そして、こんなコロナ禍だからこそ、気づかせてもらえたことがいくつもありました。

- ・レベルが下がって、本当に久しぶりに歌を歌ったとき、「歌うって楽しいなあ」って突然思ったのでした。理由はわかりません。でも、急にそう思えて自分でもびっくりしました。
- ・結婚式に参加しました。おめでとうという気持ちを普段なら声に出して精いっぱい伝えることができるのですが、なかなかできません。そんな時の拍手です。今伝えたい思いを乗せての拍手。力いっぱい手をたたきながら、その音を聴くと、いつもの拍手とは違いました。思いが音に乗っかっているようでした。

このコロナ禍となって2 年になろうとしています。考え出したら憂鬱なこともてんこ盛りですが、今まで気づかなかったことに気づかせてくれることもたくさんあるのかなあとこの頃思います。上記のような感覚。急に私の五感がするどくなっただとは思えません。しかし、今まで気づかずに通り過ぎていたことに、ふと心が留まる。そんなことが増えているような気が致します。

「つぶやき」ご拝読ありがとうございました。また、2021年、大変お世話になりました。少し早いですが、今年の「つぶやき」納めとさせていただきます。

来る2022年も、子どもの素敵さが伝わるよう「つぶやき」ますのでお付き合いいただけたら幸いです。良いお年をお迎えくださいませ🍷🍷🍷